

延長看護施設

Extended Care Facilities

Charles B. Hackney

(JAPTA, 48, 2, 135-136)

従来、慢性病や老人病に対しては longterm care ということばを当てはめ治癒の可能性のないものと考えられてきた。したがって、このような疾患をもった患者はしだいに自立心を失っていった。最近では、これらの患者にリハビリテーションの可能性が認められてきたので、PT の必要性が強調されている。

延長看護施設は急性期の患者を扱う病院での治療が終わった者に対して単に受動的に看護をうけるのではなく、自分自身も積極的に治療に参加しつつ精神的、身体的な自立をはかる所である。この施設における PT の役割は健康維持、リハビリテーション、職員に対する訓練、管理である。

健康維持：この施設に入新する者の多くは長い病院生活を経た老人が多い。したがって ADL の機能の低下がみられまた静脈血栓、肺栓塞、沈下性肺炎などにかかりやすい。ベッドでの安静期には血液循環の改善、血栓の予防、ROM の維持に注意、椅子にすわることを許された時期には正しい移動の方法を教え、患者の疲労を軽減さ

せるよう努める。また PT は種々の程度の活動により起こるストレスの量について知る必要がある。

リハビリテーション：PT は患者に対して直接的なケアは行わずコンサルテーションの型をとって監督下にあるエイドに治療を行なわせる。PT は定期的に患者を観察し、評価、再評価、将来の治療プランをたてる。エイドは資格以上の責任を持たされることはない。

職員に対する訓練：回復期にある患者のリハビリテーションのすべてについて教育し、よりよいエイドを獲得する。また教育のプログラムを改良してゆく。

管理：患者の評価、診断名、ゴール、治療上の注意、進歩などについての正確な記録を保管する。PT はチームの中であって健康維持とダイナミックなリハビリテーションの哲学を広めてゆく一員とならねばならず、患者の状態を評価するだけでなく、施設全体の機構が患者のよりよいリハビリテーションのために効果的に働いているかどうかを把握してゆく責任がある。